

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2018年2月

主な出来事

- 1日、UDPS は、昨年2月1日にブリュッセルで死去した故エチエンヌ・チセケディ党首(享年84歳)の1周年追悼ミサを、キンシャサ市のノートルダム大聖堂で行った。
- 4日、イツリ州のエマ族コミュニティの代表は、2日から再燃したエマ族と レンドウ族間の民族紛争により、同州ジュグ地区バエマ＝ノールで、エマ族23名が虐殺され、12名が重傷を負ったと伝えた。また、州当局者は AFP に対し、レンドウ族側の民兵数十人も死亡したと述べた。同州の状況に関し、13日に UNHCR は、この2か月間で約20万人の国内避難民(IDP)が発生し、2月前半の1週間のみで、約22,000名のコンゴ(民)人が、アルベール湖を超えてウガンダに避難したと発表した。
- 5日、コンゴ(民)の民間航空当局はキンシャサのブリュッセル航空代表に対し、同日以降、同社のコンゴ(民)とベルギー間の航空便を、現在の週7便から4便に削減するよう通達した。
- 5日、コンゴ(民)当局はキンシャサのベルギー大使館に対し、アントワープにあるコンゴ(民)領事館の閉鎖決定と、ルブンバシの領事館を閉鎖するよう求める通達を行った。
- 17-18日、カビラ大統領はザンビアを訪問し、ルング大統領と会談をした。
- 20日、ラマザニ・シャダリ副首相兼内務・治安相の後任として、アンリ・モヴァ新副首相兼内務・治安相が任命された。
- 22日、アリ・ボンゴ・ガボン大統領はキンシャサを訪問し、カビラ大統領と会談をした。
- 25日、カトリック非聖職者調整委員会が呼びかけた平和的デモ行進の犠牲者数について、ンショレ・コンゴ・カトリック司教会議事務局長は、キンシャサで1名が死亡、複数名が負傷したと述べた。同デモ行進に関し MONUSCO は、死者は2名(キンシャサ1名、ムバンダカ1名)で、47名が負傷し、100名以上が逮捕されたと発表した。
- 26日、与党PPRDはラマザニ・シャダリ元副首相兼内務・治安相を同党の初代常任事務局長(secretaire permanent)に任命した。
- 27日、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領がキンシャサを訪れ、28日には、カビラ大統領と会談をした。

1. 内政

(1)コンゴ(民)とベルギーの外交問題

ア ブリュッセル航空への便数削減の通達

・5日、コンゴ(民)の民間航空当局(Autorite de l'aviation civile:AAC)はキンシャサのブリュッセル航空代表に宛てた書簡で、5日以降、同社のコンゴ(民)とベルギー間の航空便を、現在の週7便から4便に削減するよう通達した。チウンバ AAC 局長は削減の理由として、「両国間の国際航空サービスにおける相互性の欠如」を挙げた(5日付 AFP)。

イ コンゴ(民)とベルギーの領事館閉鎖の通達

・5日、コンゴ(民)当局は、ベルギーとの外交使節の水準を下げるとして、アントワープにあるコンゴ(民)領事館の閉鎖を決定し、ベルギー側に対し、コンゴ(民)に2つ(ゴマ市とルブンバシ市)あるベルギー領事館のうち、少なくともルブンバシの領事館を閉鎖するよう求める通達を、キンシャサのベルギー大使館に送付した(5日付 Jeune Afrique)。

(2)カビラ大統領の中央コンゴ州訪問

・10日、カビラ大統領は4日間にわたり、中央コンゴ州を訪問した。

(3)モヴァ新副首相兼内務・治安大臣とラマザニ・シャダリPPRD常任事務局長の任命

・20日、ラマザニ・シャダリ副首相兼内務・治安相の後任として、アンリ・モヴァ新副首相兼内務・治安相 (Henri MOVA SAKANYI) が大統領令で任命された。モヴァ新副首相兼内務・治安相は55歳でオー・カタンガ州ルブンバシ市出身。これまでに何度か閣僚ポストを経験し、在ロシアと在ベルギーの大使も務めた。

・26日、与党PPRDはラマザニ・シャダリ元副首相兼内務・治安相を、同党の初代常任事務局長 (secretaire permanent) に任命した。

(4)政治犯の釈放

・22日、タンブエ司法大臣は、カトゥンビ元カタンガ州知事の側近であったムロンゴ受刑者 (当館注:カトゥンビ元カタンガ州知事の元官房長で、2016年4月に拳銃不法所持で逮捕され、同年7月に3年の懲役の判決を受けた) を、48時間以内に釈放する省令 (アレテ) に署名した。同受刑者の釈放には、「自身の行動により (社会的) スキャンダルを起こさない」という条件が付けられている (22日付 AFP)。

(5)カトリック非聖職者調整委員会 (CLC) が呼びかけたデモ行進への対応

・25日、CLC が呼びかけた平和的デモ行進について、コンゴ (民) 国家警察 (PNC) 報道官は、同日のデモ行進では、治安部隊のプロ精神により、目標どおり「死者ゼロ」を達成したと思うと発表した。国営テレビでは暫定的結果として、22名が負傷 (うち13名は警察官)、8名が尋問を受けたと報じた (その後、26日になり、PNC 報道官は、死者2名 (キンシャサ1名、ムバンダカ1名) に訂正し、キンシャサで至近距離からゴム弾を発砲し、市民を死なせた警察官を逮捕したと発表した)。

(6)野党の動向

ア UDPS の動き

・1日、UDPS は、昨年2月1日にブリュッセルで死去した故エチエンヌ・チセケディ党首 (享年84歳) の1周忌追悼ミサを、キンシャサ市のノートルダム大聖堂で行った。追悼ミサに続き、同日午後にはリメテ地区の UDPS 党本部において、政治行事が行われた。

・1日、UDPS とは別に、チバラ首相 (UDPS チバラ派) も、別の教会で追悼ミサを行い、故チセケディ党首の遺体の帰国を約束した。

・3日、故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の遺族と UDPS は、ブリュッセルの教会で追悼ミサを行い、約500名が参列した (3日付 AFP)。

・8日、カブンド UDPS 幹事長は記者会見で、今月26-27日の2日間、キンシャサ市リメテ地区の UDPS 党本部で、故エチエンヌ・チセケディ党首の後継者となる新党首を選出するための党大会を開催すると発表した。

・12日、UDPS はコミュニケで、「25日に CLC が計画するデモ行進を支援するため、26-27日に予定していた党大会を延期する」と発表し、「全ての闘士が同デモ行進に大々的に応える」よう呼びかけた。

イ ACO の G7 脱退

・野党プラットフォーム G7 に所属する小政党 ACO のバンザ党首 (Dany BANZA) は、G7 総裁のルンビ MSR 党首に宛てた1月30日付の書簡で、G7 からの脱退の意思を伝えた。脱退の理由についてバンザ党首は、「妥協の困難な意見の相違」としており、特に、G7 の「統一候補」戦略に反対している。野党プラットフォーム G7 の名称について、G7 所属のルトウンドウラ MSDD 党首は、7政党のうち1政党が脱退して6政党となっても「G7」の名称はブランドであり、そのまま維持す

ると述べた。

(7)独立国家選挙委員会(CENI)の動向

投票機器200台の韓国からの到着

・28日、CENI が発注した投票機器のうち、普及活動用の200台がキンシャサに到着した。

2. 外交

(1)カビラ大統領とタックス南部アフリカ開発共同体(SADC)事務局長の会談

・2日、コンゴ(民)を訪問中のタックス SADC 事務局長は、カビラ大統領と会談をした。

(2)シェ・オキトウンドゥ外相とナンガーCENI 委員長の安保理アリア・フォーラム会合出席

・12日、安保理は、ンゴ(民)選挙プロセスの進捗状況に関する非公式会合「アリア・フォーミュラ」を開催し、コンゴ(民)からは、シェ・オキトウンドゥ副首相兼外務・地域統合大臣とナンガーCENI 委員長が出席した。

(3)カビラ大統領のザンビア訪問

・17-18日、カビラ大統領はザンビアを訪問した。17日にはルング大統領と会談を行い、両国間の通行税、貿易、国境の安全等に関し協議した。18日には、カビラ大統領は、ザンビアの独立の父であるカウンダ元首相を自宅に表敬訪問し、また、3名の元大統領(チルバ、ムワナワサ、サタ)の霊廟に花束を供えた。

(4)ボンゴ・ガボン大統領のキンシャサ訪問

・22日、アリ・ボンゴ・ガボン大統領はキンシャサを訪問し、カビラ大統領と会談をした。今回のボンゴ大統領の訪問は、昨年4月24日、カビラ大統領がボンゴ大統領の招待に応じてガボンを訪問し、フランスビルで行われた首脳会談に続くもの。

(5)ムナンガグワ・ジンバブエ大統領のキンシャサ訪問

・27日、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領がキンシャサを訪れた。27日夜には、カビラ大統領主催の夕食会が開かれ、外交団も出席した。28日には、カビラ大統領と首脳会談を行った。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)南キブ州での対マイマイ・ヤクトウンバ作戦

・2日、コンゴ(民)国軍(FARDC)による対ヤクトウンバ作戦で、南キブ州フィジ地区からタンガニーカ湖を渡りブルンジ領内に逃げ込んでいた34名のマイマイ・ヤクトウンバ(マイマイは自警団的な性格をもった武装集団)の民兵が、コンゴ(民)側に送還された。これら民兵は、1月31日に、FARDC との戦闘を逃れてブルンジのルモンゲ(Rumonge)に逃げている。2日に送還された34名の民兵の中には、ヤクトウンバ海軍の司令官(大尉)及びヤクトウンバに加わった FARDC の中尉が含まれている。また、怪我のためブルンジの病院に収容されている4名の民兵は、引き続きブルンジの病院で治療を受けている。

・9日、チワンガ FARDC 報道官は、対マイマイ・ヤクトウンバ作戦で、48名の民兵を殺害し、150名を逮捕したと発表した。

(2)イツリ紛争再燃の兆候

・4日、コンゴ(民)北東部イツリ州(旧オリエンタル州の一部)のエマ族コミュニティの代表はコミュニケで、2日から再燃したエマ族(Hema、牧畜民族)と レンドウ族(Lendu、農耕民族)間の民族紛争により、同州ジューグ地区バエマ＝ノール(Bahema-Nord)で、エマ族23名が虐殺され、12名が

重傷を負ったと伝えた。州当局者は AFP に対し、レンドウ族側の民兵数十人も死亡したと述べた(5日付 AFP)。

・13日、UNHCR は、この2か月間で、イツリ州の治安悪化により、20万人の国内避難民(IDP)が発生し、2月前半の1週間のみで、約22,000名のコンゴ(民)人が、同地域の暴力状況を逃れるため、アルベール湖を超えてウガンダに流出したと発表した(13日付 AFP)。

(3)コンゴ(民)国軍(FARDC)とルワンダ軍の交戦

・13日、ルワンダ軍がコンゴ(民)領内に侵入し、FARDC は、北キブ州ルチュル地区にあるニケノ山麓のルワンダとの国境沿いで、ルワンダ軍と交戦した。両軍に死者が発生している模様(FARDC は同軍兵士が6名死亡と発表)。交戦の原因は、国境線の画定にあるとみられ、調査のため、国境線検査合同メカニズムに付託された(14日付 AFP)。

(4)コンゴ(民)国軍(FARDC)が ADF 幹部を含む8名を殺害

・19日、FARDC は、北キブ州マポブ谷で ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)の民兵8名を殺害したと報じた。殺害された民兵の中には、通称モハメッドと呼ばれる有名な幹部をはじめとする幹部3名が含まれていた(19日付 AFP)。

(5)北キブ州ベニ地区の ADF とコンゴ(民)国軍(FARDC)の戦闘

・22日、北キブ州ベニ地区のムバウで、ADF と FARDC の戦闘が発生し、パニックになった多くの住民がオイチャ(北部)とベニ市(南部)方面に逃れた。FARDC 報道官によると、ADF がムバウ中心部を攻撃したため、FARDC が反撃した。この戦闘で、ADF 側の女性1名が死亡した。

(6)北キブ州ルチュル地区のコミュニティ紛争

・北キブ州ルチュル地区のバクンダカボ州知事代理は、25～27日の3日間で、同地区で発生したコミュニティ紛争により23名(市民16名、民兵7名)が死亡したと AFP に伝えた。紛争の原因は、フツ族対ナンデ／フンデ族の争いである。

4. グラン・カサイ地域情勢

治安の再悪化の懸念

・13日、中央カサイ州カナンガ市のントウンバ・カナンガ地区長は AFP に対し、11日に、カムウィナ・ンサプの民兵を名乗る若者集団に誘拐されていた伝統的首長(chef coutumier)とその妻が、13日、遺体で発見されたと伝えた。伝統的首長の遺体には頭部と右腕がなく、妻の遺体は喉を切られていた。ントウンバ地区長によると、同伝統的首長の密告を受け、FARDC が1月8日、カナンガ市から約30キロに位置するカントレの民兵の基地を取り壊しており、カムウィナ・ンサプの民兵を名乗る若者らは、殺された伝統的首長が、自分たちのことをカムウィナ・ンサプの一派であると軍隊に密告したと責めていた。殺害された伝統的首長の息子は、両親を殺害された報復として、近隣する村の40家屋に放火し、4名を誘拐した。

・26日、中央カサイ州ロンベル(Lombelu)地区で、カムウィナ・ンサプと思われる民兵が同区域の中心部でコンゴ(民)国軍のパトロール隊を奇襲攻撃し、14名の民兵と1名の兵士が死亡した(27日付 AFP)。

5. その他

(1)国連安保理コンゴ(民)制裁委員会による制裁対象4名の追加

・1日、安保理コンゴ(民)制裁委員会は、コンゴ(民)国軍(FARDC)のムインド(Muhindo Akili)將軍の他、3名の武装勢力リーダー(Guidon Shimiray Mwiswa(NDC-R 指導者)、Lucien Nzambamwita(FDLR 軍事指導者)、Gedeon Kyungu Mutanga Wa Bafunkwa Kanonga(ババカタ・カタ

ンガ指導者))を新たな制裁対象とした。

・2日、これを受けてフランス政府は、対象者4名の仏国内の資産を凍結したと発表した(4日付 AFP)。

・5日、これを受けて米財務省外国資産管理室(OFAC)は、対象者4名の米国内の資産を凍結し、すべての米国人に対し、対象者との経済取引を禁止した(5日付 AFP)。

(2)カトリック非聖職者調整委員会(CLC)の動き

・9日、CLC はキンシャサ市のノートルダム大聖堂で、1月21日の平和的デモ行進の犠牲者(6名)の追悼ミサを行い、外交団も参加した。

・10日、CLCは、25日(日)に再度、カビラ政権維持に反対すべく、平和的デモ行進の実施を呼びかけるコミュニケを発出した。

・25日、CLC が呼びかけた平和的デモ行進の犠牲者数について、ンシヨレ・コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)事務局長は、キンシャサで1名が死亡、複数名が負傷したと述べた。一方、CLCは、3名が死亡(キンシャサ2名、ムバンダカ1名)したとのコミュニケを発表した。これに関しMONUSCOは同日付コミュニケで、死者は2名(キンシャサ1名、ムバンダカ1名)で、47名が負傷、100名以上が逮捕されたと発表した。

(3)ローマ法王によるモンセンゴ枢機卿の後任大司教候補の任命

・6日、ローマ法王フランシスコは、新たにアンボンゴ司教(Mgr Fridolin AMBONGO、58歳、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)副議長)を、モンセンゴ枢機卿(キンシャサ大司教)の大司教補佐に任命した。カトリック教会では、司教の定年を75歳としており、モンセンゴ枢機卿も、75歳を迎えた際に、ローマ法王に辞表を提出したが、これまでのところ、受理されていない。辞表が受理された場合には、アンボンゴ司教がキンシャサ大司教となるとみられる。アンボンゴ司教は、CENCO が調停した2016年12月31日の政治合意においても、交渉における重要な役割を担った。

(4)南アのPKO兵士によるコンゴ(民)市民への暴行

・12日、デュジャリック国連報道官は、南ア国籍のMONUSCO兵士が、17歳の青年への暴行や女性への性的暴力を犯したと述べた。これに関する国連と南アによる合同調査が、グラン・カサイ地域と北キブ州で実施される予定である(12日付 AFP)。

(5)スイスの経済制裁

・21日、スイス連邦参事会は、EUが2016年12月12日と2017年5月29日に、コンゴ(民)当局者に対して行った渡航禁止及び資産凍結の経済制裁に、スイスも合流する旨発表した。今回、スイスが対象としたのは14名(2017年5月29日の対象者16名から、国連安保理の制裁対象者2名を除いたもの)。14名の対象者の中には、メンデ・メディア大臣兼政府報道官、ボシャブ元副首相兼内務・治安大臣、ラマザニ・シャダリ前副首相兼内務・治安大臣、カレフ国家情報局(ANR)長官、カニヤマ・キンシャサ州警察長官(当時、現在はコンゴ(民)国家警察(PNC)学校・研修総局総裁)等が含まれている。